みどりの地球を みどりのままで

共生の時代

●ホームページ　http://www.greencoop.or.jp/

'12 4月

●発行:グリーンコープ共同体理事会　●編集:共生の時代・編集部　●〒812-8561 福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号　カーニープレイス博多3階　TEL092(481)7923 FAX092(481)7876

東日本大震災一年後集会

2012年3月11日、グリーンコープ共同体主催で福岡市にて開催されました。そのようすについては次号に掲載します。

愛する子どもたちのために、幸せな社会を

グリーンコープの輪・和・環

■プロフィール■

1965年長崎県生まれ、長崎市在住。夫、長女（大2・京都在住）、二女（高3）、三女（小5）の5人家族。グリーンコープ生協（長崎）組合員

プルサーマルを考える会代表　**牟田　純子**さん

2

2009年グリーンコープ生協（長崎）が開催した「脱原発学習会」で講師の藤田祐幸さんの話を聞き、原発での定期点検時の清掃作業などによる労働者の被曝問題は、牟田さんにとって大きな衝撃だった。長崎で生まれて育ち、被曝の問題は人ごとではない。祖母は、原爆による被爆で亡くなっている。原発に使用するウランを採掘する他国の人も含め、多くの人が被曝しているという事実。藤田さんの話を聞くまで、無自覚だった自分を恥じた。「原発の問題をできるだけ多くの人に知らせ、原発を止めなければ」。当時、牟田さんはうつ病を克服する過程にあり、神経を集中させることができにくい状態だった。それでもグリーンコープの活動で知りあった友人たちと「プルサーマルを考える会」を作り、藤田祐幸さんを講師に講演会を重ねた。しかし、思うほどには参加者が増えない。

参加者を増やすために「信頼できる人の誘いには応じてくれるはず」と、出会う人に自分から声をかけ親しくなれるように努力をしてきた。「いつの間にかたくさんの友人や知人ができて、それが楽しくて」と牟田さん。そのうちに病気のことは気にもならなくなった。今回の原発事故以降は、原発の映画の上映会などいっそう忙しく活動している。

組合員になってから17年。グリーンコープからの情報で農薬や添加物、環境ホルモンの問題など多くを学んだ。学校給食用の食器に関しては、子どもたちの健康を第一に考えてもらえるように教育委員会や議会に働きかけた。牟田さんは思うことがあれば全力で向き合う性格。9年前からの3年間、家庭を大切にしなければならないと考え、自分の気持ちを抑えて家庭のことだけに専念したことで心のバランスを崩すことになった。その経験から、どんなによいと思ったことでも、無理に自分に強いていると破綻してしまう。自分のしたいことに楽しく取り組むことが大切だと痛切に感じた。「自分が楽しく、みんなに喜んでもらえるように行動していれば、不可能と思うことも可能になる。すると自然にプラス思考になっていくんです」。夫も子どもたちも、牟田さんの思いを理解してくれている。自分自身と家族の健康と幸せがあっての活動だとも思っている。忙しくても家族への気配りは、大切にしているが、おっとりとした性格もあって家事と活動の両立はなかなか難しい。「私、ほんとに普通の母親なんです。子どもたちは私の宝。この子たちが幸せに暮らせる社会をつくりたい。私をさまざまな行動に駆り立てるのはその思いです。そして、願いは行動する人が増えること。みんなの小さな一歩が社会を変えると信じていますから」と話す牟田さんの笑顔はやわらかい。

Contents

ファイバーリサイクル
私たちの思いのこもった衣類が パキスタンへ向けて出発しました　2

うちのメーカー・うちの生産者⑱
農業生産法人(有)大矢野原農場　産直若鶏　3

第7回 GMOフリーゾーン全国交流集会inやまぐち
未来へつなげよう！遺伝子組み換えのない 環境・農業・食べもの　4・5

阿蘇の自然を守りたい
公益財団法人阿蘇グリーンストック 賛助会員募集　6

共同購入ステーション げんきくんのみせオープン
みんなのお店元気カー グリーンコープのお店があなたの町にやってくる　7

別紙にて、「放射能汚染と向きあう（放射能測定室より）」シリーズ（7）被災地復興の今を掲載

送信

主人のふるさとへUターンしたのは2000年の春。今年で干支がひと回りした。

ちょっとした文化の違いや環境の変化に初めは戸惑ったが、豊かな自然と人々の優しさにあふれるこの地で「永住」を腹に決めてから、大好きな場所になった。

ここでのたくさんの新しい出会いと、大切な人との悲しい別れを越えて、自分の価値観も少しずつ変わってきた。それには組合員活動はもちろん、昨年の震災と原発事故も大きく影響している。日々の活動の中に、自分と家族、地域みんなの「いのち、自然、くらし」があり、そこには守るべきみんなのふるさとがある。

この地で産まれ育つ我が子にとっては、ここがふるさとだ。美しい山と海、そして温かい人たちに守られるかけがえのない日々を、しっかりと心に刻んで成長して欲しいと願っている。

グリーンコープ生協とっとり理事長　小椋　あけみ

私たちの思いのこもった衣類がパキスタンへ向けて出発しました

ファイバーリサイクル

パキスタンに送られた衣類は、学費のいらない学校アル・カイール アカデミーの運営資金の一部になります

2010年秋にはじまったグリーンコープのファイバーリサイクル事業。立ち上げから約１年半、組合員から寄せられた衣類は順調に集まり、パキスタンの子どもたちを支援するための衣類を乗せた船が、3月1日、博多港から初出航しました。それに先立ち2月22日、パキスタン向けの衣類をコンテナに積み込む作業が行われ、関係者が集まり送り出しのセレモニーが行われました。

ファイバーリサイクル事業の近況と、セレモニーのもようを報告します。

グリーンコープのファイバーリサイクルの目的

① ※抱樸館福岡の入居者の雇用

② パキスタンの子どもたちの教育支援

③ 衣類のリユース・リサイクル

※生活困窮者のための自立支援施設

ファイバーリサイクル事業の成果

抱樸館福岡入居者の雇用

ファイバーリサイクルセンターでは、抱樸館福岡の入居者の就労訓練の場として、衣類の仕分けやファイバーリサイクルショップでの販売などをしています。仕事の訓練だけでなく、生活リズムを整え、なかまを作り、働くことで人の役に立つという意義を見つけています。これまでに就労訓練した人は24人、そのうち、就職した人が10人、7人が現在も訓練中で、7人が生活保護によって地域で自立した生活を送っています。

衣類のリユース・リサイクルの取り組み

各単協で開催されたファイバーリサイクル市、昨年12月にオープンしたリサイクルショップ「ゆう＊あい」での販売活動等によって、衣類のリユースが広がっています。２０１０年11月から衣類を送ってくれた人は６７１５人、総重量は約72トンに上ります（２０１２年３月10日現在）。

> 毎日仕事をするという習慣や、多くの人と知り合う事が出来て良かったと思います。これから先仕事をしていく自信が出来ました。人と人とのつながりが良くわかりました。
>
> 就労訓練を終えた抱樸館福岡入居者の感想

第一回 古着の送り出しセレモニー 2月22日 ファイバーリサイクルセンター

セレモニーには組合員をはじめ関係者が集い、パキスタンへの送り出しを祝いました。アル・カイール アカデミーのムザヒル校長から届いた手紙も読み上げられ、組合員の思いが実を結び、パキスタンの子どもたちが教育を受ける機会をつくれることを、一同で喜びあいました。

また、就労訓練中の抱樸館福岡退所者からの「抱樸館に出会いここで働くことができて幸せです。生きていく自信がつきました」との挨拶に、大きな拍手が湧き起こりました。

20トンコンテナにぎっしりと衣類が積み込まれました

コンテナの積み込み作業をした人、セレモニーに集まった組合員や関係者が、全員集合して笑顔

行岡良治さん

私たちとパキスタンを連帯でつなぐ大きな一歩です

社会福祉法人グリーンコープ 理事長　行岡良治さん

私たちがファイバーリサイクル事業をはじめて、1年数ヵ月がたちました。今日、ようやく、パキスタンに向かって送り出す日を迎えることができました。ムザヒル校長、そして、パキスタンの子どもたちの喜ぶ顔が、目に見えるようです。

これは、私たちとパキスタンを連帯でつなぐ、歴史的な、記念すべき、大きな一歩を意味しています。しかし同時に、これは一歩に過ぎません。これからも、長く続くパキスタンとの、そして、全世界の民衆との、連帯の道を一歩一歩、着実に歩んでいきたいと思います。

多くの組合員の参加と様々な人の協力で実現しました

グリーンコープ共同体 代表理事　田中裕子さん

田中裕子さん

パキスタンの子どもたちに教育をと願う国境を越えた子育て支援。それは、同じ母親の気持ちを衣類に託した多くの組合員の参加と、抱樸館福岡の方々、組合員、地域の方々の協力があって、本日の送り出しを実現することができました。

過酷な状況の中にあっても、懸命に学ぶ姿や、学ぶことの楽しさ、将来の夢を笑顔で話す子どもたち。そして、子どもたちに教育をと願うムザヒル校長の熱い思いに、私たちの衣類にこめられた思いが海を越えてつながっています。これからもひとりでも多くの人が継続して参加していけるように、一人ひとりが衣類を出すだけでなく、購入する、支えるなど、いろいろな方法で参加できる取り組みとして呼びかけ、今日のような送り出しの日がたくさん訪れることを願います。

江島真弓さん

女性が自分らしく働き生きることに連帯しています

グリーンコープ福祉ワーカーズ・コレクティブ連合会 理事長　江島真弓さん

「アル・カイール アカデミー」を卒業した女性たちが「縫製工房」で働いておられます。この方たちがさらに自立して生活していけるように、私たち福祉ワーカーズ連合会では、私たちが働く現場で身につけるエプロンを注文させていただきました。パキスタンから近い将来届くであろうエプロンを身につけることで、女性が搾取されず自分らしく働き生きていくことに連帯していることを、私たちもまた、現場で汗を流しながら感じることができると思います。

青木康二さん

仕事をするなかで人は本当の意味で生きていきます

社会福祉法人グリーンコープ 抱樸館福岡 館長　青木康二さん

「雇用をつくる」ということが、これからの抱樸館にとって、とても大きな意味を持つことになると思っています。生活の保障があるだけでは、人は幸せになりません。仕事をするなかで、何かの役割を果たすなかで、人は本当の意味で生きていきます。そして、職場を通して社会に参加し、なかまを作っていきます。

失職し困っていた方が、仕事を通してなかまを作る。さらに、パキスタンとつながる。パキスタンの子どもたちの喜びが、なかまの喜びが、働く支えになる。この取り組みを、続けていきたいと心から思います。

アル・カイール アカデミー ムザヒル校長からの手紙

尊敬するグリーンコープの皆様へ

最初に、私は、今日という日に感謝しています。皆さんたち、すべての日頃の努力によって、古着のコンテナを運び出す日が来たという事は、単にアル・カイール アカデミーの生徒だけでなく、私たちの親愛なる日本人の皆さんにとっても良いニュースであります。

ムハマッド・ムザヒルさん

何と言っても、今日という日を導いてきたこの画期的な出来事はアル・カイール アカデミーを厳しい壁から開放するきっかけとなるでしょう。

努力と情熱によって、古着を送りはじめられた皆さんは、これからも尊敬される団体となり、より社会的な価値が認められ、またこの事実は皆さんの関心の高さや取り組みへの機敏さ、そして人道主義というすばらしさをより多くの人に証明していくことになるでしょう。

私は遠く離れていても、人々が必要としている必需品を存分に揃えてくれた皆さんの熱意と情熱をはっきりと理解できています。それによって、アル・カイール アカデミーの子どもたちは幸福になると思います。

私たちと皆さんが一緒に仕事を継続することで、やがてくる難問に直面しても、共に打開できるという確信があります。今日、それを約束します。

アル・カイール アカデミー校長
ムハマッド・ムザヒル

うちの生産者

118

熊本県上益城郡山都町

農業生産法人
㈲大矢野原農場

うちのメーカー

日永輝夫さん、ヤス子さん

国産飼料米。4月から国産飼料米の配合率が10%になった。
えさはすべてnon-GMO(遺伝子組み換えでない)、ポストハーベストフリー（収穫後の農薬不使用）

現場で培った経験と勘が生きる飼育

産直若鶏

熊本県中部、阿蘇外輪山の南に広がる草原地帯、大矢野原。標高600mのその地に、産直若鶏と加工品を生産する「大矢野原農場」がある。年間20万羽の若鶏と10種以上の鶏肉加工品をグリーンコープに出荷している。

30年あまり、夫婦で農場を切り盛りしてきた日永輝夫さん、ヤス子さんに話を聞いた。

赤ちゃんを育てるように

日光が明るく差し込み、日田の杉・檜チップが敷き詰められたふかふかの鶏舎の中で、鶏たちは思いのままに動き回る。夏は窓が開放され山の清浄な空気が流れ、冬は保温のためビニールシートで覆われるが明るさは保たれている。一般には、早く太らせるため鶏舎を暗くして、鶏の動きをにぶらせることが多いが、「明るいほうが、鶏が良く見えて健康状態が分かる。それに光によって鶏自身がビタミンDをつくることができるんです」と養鶏を担っている輝夫さん。

鶏の健康管理には自身の五感を使う。目で見て臭いをかぎ、鶏やふんの状態、アンモニア臭がないかなどをチェックする。季節や状況によって対応を変えるので、マニュアル化はできない。長年蓄積された経験だけが頼りだ。鶏はデリケートな生きもの。抗生物質などの薬剤を使わずに飼育するため、ほんのわずかな異変にすばやく対処することが求められる。「赤ちゃんを育てるのと同じですよ」と輝夫さん。冬の寒さ対策には特に気を遣う。鶏舎の温度が低すぎてはいけないが、保温しすぎると鶏の体温は高いので逆に熱がこもってしまう。「37℃の湯たんぽが床一面にいるようなもの」だそうだ。カーテンの開閉で温度を調節するが、保温と換気の兼ね合いが難しい。ここでも輝夫さんの経験がものをいう。

一番気を抜けないのが、生後1日から育てる雛の飼育。いかに最初のえさを食べさせられるか、適正温度を保てるかが、その後の生育に大きく関わる。「最初の1週間が勝負。その飼育状況によって肉のつきも変わります」。生後約30日までは体温調節機能が発達していない。高冷で昼夜の温度差の激しいこの地では、夜の見回りも欠かせない。

死ぬまで「鶏養い（とりやしな）」

輝夫さんが脱サラして養鶏を志したのは31年前。グリーンコープの前身生協がそれまでなかった産直若鶏を商品として求めていることを知り、「人がしていないことをやりたい」と思った。養鶏農家へ教えを請いに訪ねたが、どこへ行っても「やめておけ」と言われた。それで輝夫さんの負けん気魂に火がついた。「難しいことなら誰もしないだろう。それなら自分がやってみよう」と、独学で養鶏をはじめた。

そこからは試行錯誤の連続。地鶏や放し飼いも試した。オスだけを飼ったこともある。最初の10年間で飼った鶏は10種ほどにもなる。その間、グリーンコープの前身生協に出荷し続けた。

「その頃の生協はいろんなチャレンジを認めてくれた。その時代があったから今の自分がある。生協に育ててもらったようなものです」と輝夫さんは言う。

自身を「鶏養い」と称す。「ゼロからのスタート、常に研究でした。鶏の病気との闘いでもありました。いくら研究しても、最終的には現場でしか分からないものです」。「生涯この道」という覚悟が、おおらかな人柄から垣間見られる。

加工品は産直若鶏のうまみがたっぷり

若鶏の解体と加工品の製造を担っているのが、妻のヤス子さん。以前は外部に委託していたが、20年ほど前から農場の敷地内に加工場を造り、ヤス子さんが責任者となって自前でやるようになった。時流により加工品の品目は徐々に増え、現在では出荷の約4割を占めるまでになっている。

ヤス子さんはこれまでに、10種以上の商品開発に携わってきた。「新しい商品を開発する時は、組合員さんに少しでも長く食べてもらえるよう、一生懸命作ります」。ヤス子さんの商品作りには、家族を支えてきた母の手料理の味が生きている。※まもなく待望の新商品、プリフライタイプの唐揚げ2種が登場する予定だ。

解体作業後の計量。骨などが残っていないか入念にチェックする

後継者が支える産直

昨年から、日永さん夫妻の二男、幸介さんが養鶏の仕事に加わった。これまで野菜を作っていたが、父の仕事を継ぐ決心をしたのだ。今は輝夫さんについて修行中。輝夫さんは30年以上かけて積み上げてきたノウハウを、幸介さんに伝える。自身の経験から、「自分でやってみらんとわからん」と現場での経験の大切さを説く。「何かあった時どう対処するのかが、最大のポイント。これをつかむには、息子もまだ時間がかかるでしょう」と、父親の厳しいまなざしを向ける一方で、期待の大きさもうかがわせる。

ずっと夫婦二人三脚でやってきた。現在も組合員の学習会等には、二人そろって参加する。輝夫さんは養鶏の話を、ヤス子さんは鶏の解体実演と調理を受け持つ。「組合員さんに、『おいしい』、『他の鶏は食べられない』と言ってもらうと、やりがいを感じます。これからももっと喜んでもらえる鶏を育て、商品を作っていきたい」と夫婦で語る。

後継者を得て、大矢野原農場はますます元気。私たちに安心・安全、そして「おいしい」若鶏を届けてくれる。

※オーブントースターでできる若鶏のなんこつの唐揚げとせせりの唐揚げが、それぞれカタログGREEN8号と12号で登場予定

ＢＭＷ技術で生物活性水を作り、鶏糞堆肥作りに利用している。堆肥は近郊の野菜農家へ

生物活性水プラント▶

大矢野原農場の若鶏飼育の流れ

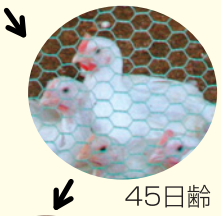
誕生
1日

入雛

7日齢
7日齢の雛。赤い容器のえさ場へ集まる

肥育

15日齢



45日齢

出荷

63日齢

60～65日
一般（40日ほど）より長い肥育でうまみが蓄積される

オールイン・オールアウト方式で出荷

病気等を防ぐため、雛鶏を一斉に入れ一斉に出荷する。その後鶏舎は洗浄後、石灰を塗りなおして消毒し、25日以上空けておく

つなげよう！
み換えのない
業・食べもの

グリーンコープは、生物の遺伝子を操作する遺伝子組み換え（以下、ＧＭ）に反対の姿勢を貫き、ＧＭ作物を栽培しない地域を広げるＧＭＯフリーゾーン運動に積極的に取り組んでいます。

今回、グリーンコープやまぐち生協が受入団体となり、山口市で第７回「ＧＭＯフリーゾーン全国交流集会」が開催されました。全国から４４２人が集い、全国に向けて「遺伝子組み換え食品はいらない！食べない！作らない！」ことを宣言しました。

２０１２年３月３日に開催された全国交流集会のようすを報告します。

第7回　GMOフリーゾーン全国交流集会 in やまぐち

開会の挨拶

実行委員会委員長
秋川　正さん
産直若鶏生産者
（株）秋川牧園代表取締役社長

１９９０年代から広がりはじめたＧＭ種の栽培やＧＭ食品は、残念ながら世界中で年々広がっています。日本は世界最大のＧＭ食品の輸入国です。国内では、ＧＭ種の栽培は基本的に禁止されていますが、こぼれ落ちたＧＭ種から従来種との交雑が既に起きています。

この問題に関心を持ち、その関心の輪を広げることを目的に始まったのがＧＭＯフリーゾーン運動です。

山口県でこの集会が開催されることを通して、この運動を多くの人に知っていただけたことを実行委員としてうれしく思っています。

遺伝子組み換えのない環境・農業・食べものを、未来の世代にしっかりと残していきましょう。

特別報告

町をあげて安全な農産物の生産に取り組んでいます

産直米生産者
菊川町レインボー稲作研究会　事務局
市村　猛さん

下関市菊川町でもＧＭＯフリーゾーンを広げています。町内には、安全なお米と野菜を生産している２つのグループがあります。

「菊川町レインボー稲作研究会」は、安全なたまごを生産するグループからスタートし、鶏糞を活用した安全な米づくりも行っていました。１９９３年、グリーンコープ組合員の「安全なお米がほしい」という要望を受けて、産直生産者として立ち上がりました。グループの名称には消費者との虹の架け橋になるようにと願いを込めています。現在の会員は29人で、アイガモ農法による無化学肥料無農薬のお米を生産しています。食農教育の取り組みにも力を入れており、毎年６月には町内の保育園児が田んぼにアイガモを放鳥し、10月には小学生がお米の収穫体験をしています。グリーンコープの組合員との体験交流も盛んです。

「菊川町産直野菜グループ」は、可能な限り農薬を減らした安全な野菜を生産しています。２０００年に会員10人で発足し、グリーンコープに出荷するようになりました。２００１年より、安心・安全な野菜を地元の子どもたちにも食べさせたいと、菊川町内の保育所や小中学校にも給食用の野菜を出荷。現在キャベツや白菜など、10数種類の野菜が給食に使われています。

「地場産野菜を食べよう」という取り組みでは、年１回、会員が一人ずつ町内の小中学校に出向き、自分たちが生産している野菜について話をし、その野菜を使った給食を一緒に食べながら子どもたちと交流しています。

今後も、「健康を考えるとまずは食であり、その源は農である。農業は生命の産業である」をモットーに、安全なお米と野菜を生産し、週５日完全米飯の菊川方式の学校給食を広げていきたいと考えています。

基調講演

遺伝子組み換えは何をもたらし、どこに向かおうとしているのか？

遺伝子組み換え食品いらない!キャンペーン代表
天笠　啓祐さん

世界で拡大するＧＭ作物の栽培

２０１１年、世界のＧＭ作物作付け面積は、世界の農地面積の10分の１強となった。インドでは、ＧＭ綿栽培が、コストダウンに効果があり儲かるからと売り込まれたが、現実は収量が減り、借金する生産者が増えた。多数の自殺者が出るなどひどい状況だ。中国でもＧＭ作物栽培が拡大傾向にある。

日本市場での広がり

２０１１年12月１日、ウイルス病に耐性を持たせたＧＭパパイヤの輸入が日本で解禁された。アレルギーを引き起こす懸念があるとして承認が遅れていたものだ。私たちは全国的にＧＭパパイヤの販売状況を調査すると共に、ＧＭパパイヤを絶対に販売しないよう要請している。

また、２０１１年12月５日、食品衛生法に基づく安全審査を受けていない２種類のＧＭ食品添加物が大量に日本に輸入され流通していることが判明した。これらの添加物はかつお節としいたけの風味を出すために用いられている。同月22日には、着色料や栄養強化剤に用いられるリボフラビンと、パンを作る際の酵素であるキシラナーゼの違法流通も判明した。

しかし、厚生労働省が回収を命じたのは流通量の少ないキシラナーゼだけだ。それどころか、急いで承認しようとしている。違法なＧＭ食品添加物の流通を野放しにしている状態だ。

農家の被害が補償されるか

三重県は、四日市港を中心に、大量に輸入されたＧＭナタネの種子が輸送中にこぼれ落ち、自生が広がったことから、県の特産品の菜花の自家採種をあきらめた。西オーストラリア州では、有機農業を営む農家が、隣接するＧＭ作物を栽培している農家からの種子汚染で有機認証を取り消された。米国とカナダでも有機農業を断念する農家が出ている。

沖縄では違法なＧＭパパイヤの種子であることを知らずに栽培し、ほとんどすべてのパパイヤが刈り取られた。パパイヤ農家は多大な損害を被ったが、補償されたのは苗代だけだった。現在の国内法では、モンサント社など海外のＧＭ作物開発企業は訴えることができない。２０１０年、「名古屋・クアラルンプール補足議定書」※に、ＧＭ汚染で被害を受けた農家の経済的損害の責任を誰が負い、どう救済するかについての仕組みが盛り込まれた。開発企業の責任をどのように求めていくのか、カルタヘナ国内法の改正が今、国会で大詰めとなっている。

人体への影響は計り知れない

除草剤耐性ＧＭ作物に散布される除草剤の人への健康被害が明らかになってきている。アルゼンチンではＧＭ大豆に使う除草剤の影響で、白血病、皮膚の潰瘍、肝臓がん、出産の異常、発達障がいなどが増えている。欧州の環境保護団体が約２００の論文分析を行い、ラウンドアップががんや出産異常、神経系の障害などをもたらすことが分かった。

ＧＭ作物の食品としての安全性も脅かされている。米国環境医学会は、ＧＭ食品が免疫システムや、生殖・出産への影響、肝臓や腎臓などの解毒臓器を傷つけることなどを明らかにした。カナダの大学の産科婦人科の調査では、ＧＭ作物の中の除草剤やその殺虫毒素が妊婦の体内に蓄積し、胎児に移行することが分かった。

世界の各地で広がる反対運動

世界の種子の23％、大豆の70％を支配するなど、米国モンサント社の独占状態が進んでいる。モンサント、デュポン、シンジェンタという多国籍企業３社が世界の種子の半分を支配している。次は稲と小麦を支配し、全穀物を支配、さらには野菜の種子支配までをも目論んでいる。

このようなＧＭ拡大の動きに対し、反対運動も広がりをみせている。欧州では、ドイツ・フランス・ブルガリアなど７ヵ国がＧＭ作物の栽培を禁止。ギリシャでは54の地方政府全部がＧＭＯフリーゾーン宣言をしている。オーストラリアでは３州がＧＭ作物を解禁したが、２州がＧＭＯフリーを継続させている。韓国ではＧＭ食品反対運動が広がりをみせている。アフリカでもジンバブエがＧＭ作物を禁止するなど、世界中でＧＭ反対の態度表明を行う国や地域が広がっている。

日本国内では、北海道や首都圏を中心にＧＭＯフリーゾーンが広がっている。北海道、新潟県などＧＭ作物栽培の規制に動く都道府県も増えている。市町村でも宮崎県綾町が、ＧＭ作物交雑・混入防止の項目を入れた条例を制定している。このように、多くの自治体で、ＧＭＯフリー宣言などが出されている。

私たちはさらに、ＧＭＯフリーゾーン運動を広げていく必要がある。

※２０１０年10月に名古屋で開催された「カルタヘナ議定書第５回締約国会議（ＭＯＰ５）」で、ＧＭ生物がもたらす被害の責任と、それにともなう修復や賠償について定めたもの

グリーンコープやまぐち生協の組合員が絵本「いねのこ ぴょーん」の寸劇を披露しました

GM作物の危険性や問題点を、次世代を担う子どもたちに伝えようと、2002年、「ストップ！GMイネ生協ネットワーク」がつくった絵本。グリーンコープやまぐち生協の組合員がお話を考え、生活クラブ神奈川の組合員が絵を描いた

未来へ
遺伝子組
環境・農

生産者リレーメッセージ　ーグリーンコープの生産者よりー

果実飲料等メーカー

日本果実工業(株)
藤井　晋さん

地元農産物を地元で加工し販売する当社の取り組みで、消費者の地場農産物に対する安心感や愛着心が湧くのではないかと考えます。今後も私たちは、食料自給率の向上をめざし、地域の生産者と消費者のつなぎ役として、地産地消加工品の提案をすすめていきます。近い将来、GMOフリーゾーン登録地で生産された農産物の加工・販売が出来ることを願っています。

産直若鶏生産者

(株)秋川牧園
甲斐　利光さん

「口に入るものは間違っていてはならない」という先代会長の言葉を礎に仕事をしています。人が健やかに人生を全うするために必要な食べものが間違ったものであってはなりません。「私たちは、GM作物は作らない」「家畜たちにも食べさせたくない」「本当に豊かな社会は、遺伝子を組み換えた食べものの先にはない」と考え、一人でも多くの人が立ち上がり、共に行動することを願っています。

産直青果生産者

宮崎県JA綾町
山元　次男さん

宮崎大学が2年前から取り組むGM綿の栽培に、地元住民や綾町と一緒に反対しています。今後、GM大豆の試験栽培に踏み込まないよう、JA経済連や宮崎市とも連携して反対していきたいと思います。

綾町では、安心できる農畜産物を生産しています。農村と都市との共生を深めるために、地域特性あふれた手作り食によるふれあい交流や、地産地消による学校給食をすすめていきます。

産直たまご生産者

菊川養鶏友の会
河村　信明さん

3農場がグリーンコープにたまごを出荷しています。毎月、皆で集まり、卵黄検査を行ったり、トレーサビリティーの記帳を確認しあったりしています。農協青年部で「広げよう！GMOフリーゾーン」の看板を作りました。こういう形でGMOフリーゾーンを伝えていくことが必要だと思っています。作業は大変ですが、安心・安全は当たりまえ。一生懸命やっていきます。

消費者リレーメッセージ　ーグリーンコープの組合員よりー

おうちから始めよう!GMOフリーゾーン宣言!!

グリーンコープやまぐち生協

グリーンコープやまぐち生協
藤田　陽子さん

グリーンコープやまぐち生協では、組合員に向けて、「おうちから始めよう！GMOフリーゾーン宣言!!」のチラシを配布して、家庭菜園やガーデニングなどでもGM作物を作らないという意思表示をしましょうと呼びかけました。

９月には、天笠啓祐さんを講師に招き、GMの問題点や現状、フリーゾーン運動について学びました。生産者やメーカーは食べものを作る側として、私たち組合員は食べる側として、「食べない」「買わない」「作らない」「作らせない」とアピールし、ともにGMOフリーゾーンを広げていく第一歩の講演会となりました。

2012年１月現在で、275人がフリーゾーン宣言を行い、80.23haの面積が新たに登録されています。その他に植木鉢やプランターでの登録も690あり、一人ひとりの意識がフリーゾーン運動の原動力となると感じました。

今回の全国交流集会を大きなステップとして、今後もGMに反対し、フリーゾーンを広げていきます。

グリーンコープ全体でフリーゾーンが広がっています

グリーンコープ共同体

グリーンコープ生協(長崎)
理事長 髙橋　純子さん

2011年度は、14単協のうち、やまぐち、ひろしま、ふくおか、さが、おおいた、みやざき、くまもとの7単協でフリーゾーンの取り組みを行いました。

天笠啓祐さんを講師に講演会や学習会を開催したり、組合員へチラシを配布してフリーゾーン宣言を呼びかけました。また生産者にも呼びかけて、フリーゾーン宣言する生産者が少しずつ増えているようすです。ひろしま、おおいたでも、フリーゾーンに登録した組合員が庭にガーデンピックをたてて、地域の方へもアピールしています。

閉会の挨拶

グリーンコープやまぐち生協
理事長
松村　理津子さん

今回の集会を開催するにあたり、地元の生産者やメーカーの皆さんをはじめ多くの方々にご協力いただきながらすすめてきました。その中で今まで以上に皆さんとのつながりが深まったと感じています。

これからも、作る人、食べる人、その間をつなぐ人、いろんな立場の人たちが、全国から同じ思いをもって一堂に会す集会が、１年に１回は必要だと思いました。この集会に参加し、遺伝子組み換えはいやだと実感した私たちが「GM食品は食べたくない」と言い続け、「そんなものは作りたくない」という方々がもっともっと増えていかなければ、GM作物がどんどん広がってしまいます。今は本当に大変な時期です。本日集まっていただいた450人近い方々が、それぞれに他のだれかに伝えて、地道に運動を広げていくしかありません。

私が遺伝子組み換えについて知ったのは10年前。グリーンコープの組合員になったばかりの時でした。「いねのこ　ぴょーん」の絵本もその年に発行されました。その絵本に衝撃を受け、そこから今まで活動を続けてきています。本日のこの集会を一つのきっかけにして、遺伝子組み換えのない環境、農業、食べものを、これからもずっと未来へつなげていきましょう。

GMOフリーゾーン全国交流集会の宣言

いま世界的にはGM作物の栽培面積は増えています。栽培が始まり、15年がたち、問題点も次々と明らかになってきました。世界中でGMOフリーを求める運動が広がっています。

全国から集まり、一堂に会した私たちは、世界の市民の取り組みと連携して、GMOフリーゾーンを拡大し、世界中からGM作物・食品がなくなる日まで、この運動を続けることを宣言します。

（一部抜粋）

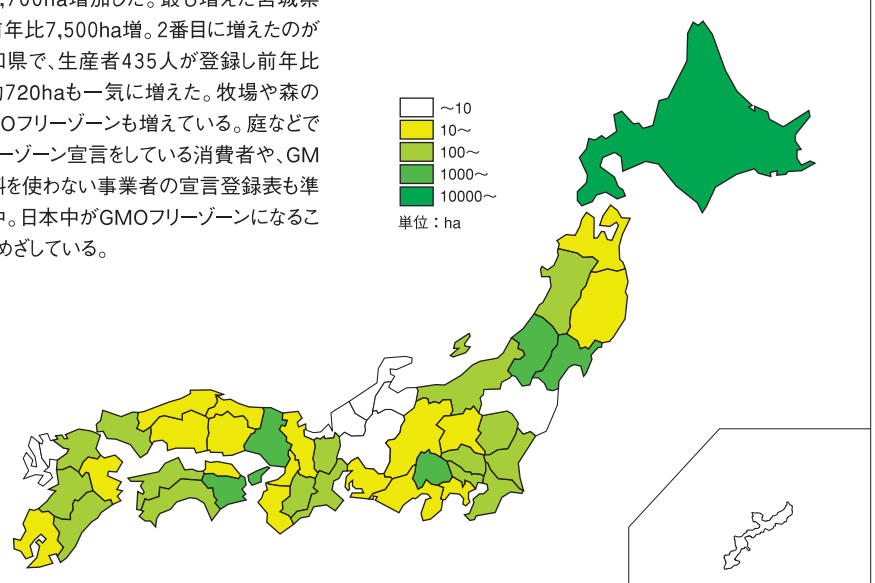
2012年3月3日
第7回GMOフリーゾーン全国交流集会inやまぐち
参加者一同

全国に着実に広がるGMOフリーゾーン

47都道府県で約78,366ha。前年度より約9,700ha増加した。最も増えた宮城県で前年比7,500ha増。2番目に増えたのが山口県で、生産者435人が登録し前年比で約720haも一気に増えた。牧場や森のGMOフリーゾーンも増えている。庭などでフリーゾーン宣言をしている消費者や、GM原料を使わない事業者の宣言登録表も準備中。日本中がGMOフリーゾーンになることをめざしている。

日本のGMOフリーゾーン登録状況

（2012年2月17日現在）



集計：遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン

「阿蘇の自然を守りたい」グリーンコープの組合員の願いから誕生した「阿蘇グリーンストック運動」に参加しよう

1995年から、地元の人たちと共に阿蘇の草原を守っていく活動を担ってきた「公益財団法人阿蘇グリーンストック」（以下、グリーンストック）。貴重な阿蘇の自然環境を後世に残していくために、市民が様々な形で参加して活動を支える『市民ボランティア型財団』です。

財団の財政的な基盤を強化するために、これまでグリーンコープ生協くまもとで行ってきた会員募集をグリーンコープ共同体に広げて、多くの組合員に呼びかけることになりました。

阿蘇は中・北部九州５県（熊本、佐賀、福岡、大分、宮崎）の主要６河川（緑川、白川、菊池川、筑後川、大野川、五ヶ瀬川）の源流域にあたり、３００万人以上の人々が恩恵を受けている「九州の水がめ」と言われている。また広大な緑の大地は、日本有数の食料生産基地でもある。

阿蘇のカルデラ火口丘と草原が織りなす雄大な自然景観は、毎年日本全国・海外から１７００万以上の人々が訪れる癒しの地だ。更に、牛馬の放牧などによって千年以上も続いている草原には大陸性の希少動・植物も多く生息しており、世界遺産にも匹敵する日本の財産とも言える。

１９９０年頃、熊本県内の大学教授などが提唱した「都市と農村が連携し、行政や企業の協力を得ながら、阿蘇の緑の生命資産を後世に引き継いでいこう」という阿蘇グリーンストック運動に、グリーンコープ生協くまもとの前身生協の組合員が共感。「阿蘇の大自然をみんなで守っていこう」と募金活動を行い、１２００人の組合員の思いで作った約４３００万円の財源を基に、県内の団体や個人の協力を得てグリーンストックを設立した。以来、グリーンコープ運動を豊かにする取り組みの一つとして、グリーンコープはグリーンコープ生協くまもとと共にグリーンストックに連帯してきた。

▲ **輪地切り**
周辺への延焼を防ぐための防火帯

野焼き ▶

グリーンストックは、あか牛の産直、牧野の実態調査、あか牛のオーナー制度、野焼き・輪地切りのボランティアの組織化など、阿蘇の草原や農業、水資源を守るための活動に17年にもわたって積極的に取り組んできた。現在では、野焼き支援ボランティアの活動をはじめとする草原保全活動、企業・団体とタイアップした森づくりの活動や、都市の子どもたちを対象にした農村体験型修学旅行事業など、各団体などと共にする活動も多様になっている。

しかし、地元の農家の高齢化や畜産業の停滞などが急速にすすみ、草原の維持に欠かせない牛馬の放牧や野焼きも減少。阿蘇の草原は危機に瀕している。九州の水がめとも言われる草原を維持していくためにも、グリーンストック運動をもっと広範な運動としていくことが急務だ。活動に賛同し、グリーンストックの活動や運営を応援する維持賛助会員を増やしていくことも必要だ。

◀**オオルリシジミ**
クララという草でしか育つことができない蝶

▲ **ハナシノブ**
国内では九州の一部だけに分布

◀**オキナクサ**
日当たりの良い草地に多く自生していたが、草刈りなどがされなくなり激減している

「阿蘇草原再生募金」にも引き続き取り組みます

長年「阿蘇グリーンストック運動」に取り組んできたグリーンコープ生協くまもとに連帯し、グリーンコープ共同体は、「阿蘇草原再生千年委員会」（県や企業・市民によって２０１０年に設立）に参加し、「阿蘇草原再生協議会」の取り組みである「阿蘇草原再生募金」を全組合員に呼びかけています。

２０１０年秋以降、阿蘇の貴重な恵みを後世に引き継ぐために、グリーンコープ生協くまもとから順次各単協で募金活動に取り組んでいます。２０１２年１月末時点で、約３４００万円（内グリーンコープは約４００万円）の募金が集まりました。目標の１億円の募金をめざして、２０１３年度まで取り組みを続けていきます。募金の申込みは各単協にお問い合わせください。

あなたも維持賛助会員になりませんか？

会費を通して財団の活動や運営を応援するのは維持賛助会員です。会費は一口３０００円／年。会員になると、広報誌「草原だより」が年４回、また財団からの様々なお知らせも届きます。財団の施設（阿蘇ゆたっと村）の利用が会員割引価格で利用できます。

問いあわせ先

**公益財団法人
阿蘇グリーンストック**

〒869-2237
熊本県阿蘇市的石 1537-1
TEL:0967-35-1110
FAX:0967-35-1151
E-mail:green-s@aso.ne.jp
（ホームページからも申し込みできます）

グリーンコープ生協さが
共同購入ステーション
げんきくんのみせ オープン

グリーンコープ共同体は仲間を増やしていく取り組みの一つとして、曜日を決めて自由な時間に商品を取りに行く「キープ（預かり）」を広げていくことを方針に掲げている。各単協ではその具体化に向けた検討が2011年度から本格的にすすめられてきた。

2012年2月20日、グリーンコープ生協さがの組合員の長年の夢だったお店が鳥栖市にオープン。お店を担うワーカーズ・コレクティブ「ハッピー」の3人をはじめ、近隣の単協組合員、グリーンコープの取引先メーカーなど84人が集まり、オープニングセレモニー・祝賀会が開催された。

さがでは2011年度の通常総代会で「お店共同購入」に取り組むことを確認。キープを主体に、商品も販売するお店の検討に入った。それまでキープを行っていた鳥栖センターを改装し、共同購入ステーションをつくることにした。お店プロジェクト準備会、参加させ隊、広げ隊などを立ち上げ準備をすすめてきた。

お店を担うハッピーは理事を卒業してワーカーになった黒瀬幸子さんと、それまで鳥栖センターのキープをパート職員として担っていた2人がメンバー。設立趣意書には「母親同士の会話が弾むところ。メーカーや生産者と出会って、作る人食べる人の気持ちがお互いにわかり、食べもののことを大切に語れるところ」とお店への夢が語られている。

さが副理事長福嶋里美さんは「このお店を鳥栖の地に根付かせて、グリーンコープを広げていきたい。そして、2号店、3号店が生まれることを願っています」と喜びを表した。共同体代表理事（さが理事長兼任）田中裕子さんは「ワーカーズを立ち上げてのお店共同購入という形は、共同体でも第1号となります。トップランナーとしてプレッシャーも感じています。そのプレッシャーをエネルギーに変えて頑張っていきます。さがのエリアに、オールグリーンコープに、お店共同購入が広がっていくことを願っています」と意気込みを語った。メーカーからは「一緒にお店を盛り上げていきたいと思っているので、ミニ祭りや商品学習会などに是非呼んでください」とエールが送られた。多くの組合員の期待を受けて、「げんきくんのみせ」がスタートした。

◀調味料やお菓子をはじめ、グリーンコープの自慢の品が所狭しと並べられている

▶レジカウンターの横には冷蔵庫・冷凍庫や棚が設置され、キープのスペースになっている

ワーカーズハッピー
代表 黒瀬 幸子さん

さが副理事長
福嶋 里美さん

共同体代表理事
田中 裕子さん

グリーンコープ生協ふくおか
みんなのお店元気カー
グリーンコープのお店があなたの町にやってくる

中山間部だけでなく、都市周辺部の住宅地でも住民の高齢化や人口減少がすすみ、商店の閉店やスーパーの撤退により、買物が不便になった地域が多くなっている。グリーンコープ生協ふくおかでは、買物が困難な組合員や地域住民に向けた買物車の検討をはじめた。生協の果たす「地域コミュニティ・交流の場」と位置づけ、組合員以外の地域住民も利用できるように県の許可も受けた。2012年3月、北九州地域10ヵ所、中部地域2ヵ所、福岡地域13ヵ所、南地域5ヵ所の計30ヵ所で「みんなのお店元気カー」（以下、元気カー）の取り組みがスタートした。

「とても助かります」と挨拶する地域の方

商品を手に取り買物を楽しむ

3月5日雨模様の中、中部地域の元気カーが宗像店で商品を積み、宗像市日の里に向けて出発した。ここでは公民館や老人憩いの家の駐車場を借りて、毎週月曜日に元気カーがオープンする。

セレモニーで、宗像支部委員長田中るみ子さんは「地域の皆さんが集って情報交換、コミュニケーションの場となればいい。買物を楽しんでください」と挨拶した。中部地域理事長園田由紀子さんは「地域の中で暮らし続けたいと思う地域づくりの一つ。地域の活性化をめざした取り組みにしていきたい」と思いを込めた。宗像市保健福祉政策課の永野憲生さんは「グリーンコープの協力を受け、高齢になっても住み続けられる町をつくりたい」と行政としての期待を表した。

「店舗はちょっと遠いので家族に頼まないと行けない。家はすぐ近くなので毎週決まった時間に来てくれるとうれしい」、「店がなくバスで買物に行っていた。助かります」、「買物は坂道が大変だった。また来ます」と地域の方は歓迎しているようす。調味料やパンなどを手に取り、職員の説明を聞きながら買物をしていた。豆腐や野菜などの生鮮品が特に喜ばれていたようだ。組合員が準備した試食を食べながら、おしゃべりの花が咲き、新しいコミュニティが誕生した。

試食を手に会話が弾む

宗像市保健福祉政策課
課長 永野 憲生 さん

中部地域理事長
園田 由紀子さん

宗像支部委員長
田中 るみ子さん

No.44

エネルギー浪費型社会を改めよう

便利で快適な生活を追い求めてきた結果、電力の消費量は増える一方だと言われています。また、電力会社は、電力生産に占める原子力発電の割合が全体の3分の1に達しており、原発がなくなると電力が不足すると言ってきました。

しかし、原発は出力調整が難しく、昼間のピーク時に合わせているため夜間の電力が余ります。「オール電化（住宅）」などは、それを消費するための典型的な例といえると思います。

東日本大震災後、原発の緊急停止や定期点検による停止などで、2月時点で54基のうち2基しか稼動していませんが、節電など一人ひとりの意識もあり原発がなくても電力の供給量に問題がないことがわかってきました。

私たちが日常的に使っている電力が本当に必要な量かどうかを真剣に考え、当たり前のようにエネルギーを浪費してきた社会を変えていき、原発のない未来を子どもたちに手渡しましょう。

参考文献：　「知っていますか？　脱原発　一問一答」　天笠啓祐著
「隠される原子力　核の真実」　小出裕章著

グリーンコープ共同体組織委員会

投稿募集中

テーマ
- わが家のエコ
- 私の好きな グリーンコープ商品

●400字程度
●〆切 毎月末
●住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。掲載分には図書カード（500円分）進呈。
●住所・氏名などの組合員の個人情報は、本紙に掲載の場合のみ使用します。

〒812-8561
福岡市博多区博多駅前1丁目5-1
カーニープレイス博多3F
グリーンコープコミュニケーションワーカーズ連（REN）「共生の時代」編集部 宛
FAX　092-481-7876
Eメールアドレス　rikoho@greencoop.or.jp

いま地域を考える
No.222

地域での小さな循環で いい暮らしをしよう

福岡市東区にあるNPO法人「循環生活研究所」は、2003年から「小さな循環　いい暮らしをしよう」を合言葉に、地域での環境活動を続けている。生ごみから作る堆肥の普及活動、ダンボール※コンポスト（以下、コンポスト）に携わる人材育成・支援活動、まちづくりプロジェクト、環境教育、国際支援、スローフード事業など活動はとても幅広い。会員は現在150人。

スタート時から中心となって活動をしている理事長の波多野信子さん、事務局長のたいら由以子さん（共にグリーンコープ生協ふくおか組合員）に話を聞いた。

▲この日の話し合いに集まっていたメンバー（前列右が波多野さん、後列左がたいらさん）

▶人材育成・支援の講座には毎回たくさんの参加者が集まる

一時的なブームでなく、続けてもらうことが大切

「循環生活研究所」（以下、循生研）のメンバーは、コンポストやそれでできる堆肥を使った菜園講座などの講師になることが多い。メンバーが講師として出かける回数は、1年間に400回を超す。コンポストは、容器のダンボールが比較的安価な点と、保温性・水分調節機能を持つなどの面から、最近注目されている。もとは「家族に安全な野菜を食べさせたい。ならば安全な土を作ろう」と始まった試みが、環境と社会を見直す取り組みとして全国に広がっている。

循生研ではダンボールコンポストアドバイザーの育成を2005年から行っている。「私たちがずっと同じことを続けるうちに、社会のニーズが高まってきました。アドバイザーの養成をすすめていたので、たくさんの講座に講師を派遣でき、本当によかったと思います」とたいらさん。循生研の人材育成・支援講座を受けたアドバイザーは100人を超える。

波多野さんは、堆肥作り歴50年を誇るベテラン。「結婚して住んだ家の庭が砂地だったので、土壌改良しないと何も植えられませんでした。庭に生える雑草やごみを土に返して堆肥にすることから始めました。農業をしている母を見ていたので、堆肥作りは私にとって自然なことでした」。それが、今のコンポストの活動につながっている。

コンポストはとっつきやすいが、虫が発生する、臭いがするなどの理由で挫折する人も多い。「続けてもらうには、フォローが大切です。私たちは数ヵ月後に必ずフォロー講座をするようにしています。一般的にコンポストの継続率は1～2%と言われていますが、うちの講座を受けた方は20～30%と比較的高くなっています」。「私たちが出向いて教えるよりも、講座を受けた人が、それぞれの地元で普及させてくれたらいいと思います」と波多野さん。現在、コンポストの普及活動とアドバイザーなどの人材育成活動は、ほぼ同じぐらいの割合になっている。

◀「エコ農園」で大学生に、堆肥について説明する波多野さん(右から2番目)

活動のキーワードは「地域」「環境」

循生研は、福岡市東区の三苫（みとま）を中心とした地域で活動をしてきた3団体が集まって2003年にスタート。2004年にNPO法人となった。地元東区の九州大学の学生を中心に地域活動をしていた「やかまし村青年団」、フリーマーケットを主催していた「フリーフリーズ」、コンポストの研究普及活動をしていたメンバーが、「地域」「循環」というキーワードが同じだったので一緒に活動をすることにした。「暮らしに必要なものを地域内で循環させることで得られる、楽しくて、安全で、創造的な生活」、これを「循環生活」と定義し、これまでのそれぞれの団体の活動をもとに、さまざまな循環型のライフスタイルの提案をめざして活動を続けてきた。

▶保育園でのコンポストの取り組み。園で出る生ごみを活用している

循生研の多彩な活動は、メンバーの中でやってみたいと思う人が中心になってすすめるという形で広がっている。市や区など行政からの委託事業も多い。その中でも、堆肥を使った菜園事業は今の活動の基盤になっている。企業の社会貢献や社員研修の一環としても利用されている。「関わった人の生活が豊かになればいいと思います」とたいらさん。

小さな循環をすすめたい

しかし、循生研の活動の基本は、やはり地域。メンバーには、地域での堆肥を使った野菜や花作りの活動を中心にしたいという思いがある。

技術的にはコンポストを続けられるようになっても、堆肥の使い道がなくやめる人がいる。家庭でできた堆肥を循生研に持ってきてもらい熟成させ、地域の農家にそれを使って減農薬の野菜を作ってもらうという循環の環境作りを2009年に始めた。農家が作った野菜は、地域の飲食店の食材となる。また週に1回地域で販売している。堆肥を作った人は、生産者の顔が見えるおいしい野菜を手に入れることができ、生産者は目の前で自分が作った野菜が喜んで買われていくのを見ることができるという、地域での小さな循環ができるようになった。野菜作りに興味を持った人が気軽に参加できるように、サラリーマンや主婦が休日だけ農業に携わる「半農都会人講座」も開始した。グリーンコープ三苫店の会議室などを使い勉強会を開いている。

◀福岡市港湾局との事業「海藻アオサの堆肥化」。できた堆肥は福岡市役所でグリーンカーテンなどに活用されている

ある程度自分でできるようになるまで、寄り添って活動していく予定だ。

「半径2㎞ぐらいの歩いて回れる程度の小さな地域の中で、互いに関わりあいながら循環を持続させていくのが理想」と波多野さん。「どんな時であっても、人間は食べることはやめられませんし、ごみも出します。自分の家庭内で処理するのが理想的ですが、そうでなければできるだけ小さなエリアで、こういうことをきちんと処理することが大切だと思います。車もあまり使わなくていいぐらいの範囲が、環境にも負荷が少なくいいんです。そのためにできることをこれからも続けていきます」と微笑む。

※家庭から出る生ごみを、基材（保水性があるもの、ココナッツピートなどが使われる）とともにダンボールに入れ、その中で減量・堆肥化を行うもの

2012年2月の組合員数 388091人

（2/20現在）

リユース リサイクル データ 2012年1月分	牛乳びん
	回収本数 583,272本 回収率 101.0% （12月18日～1月14日回収分）
リユースびん	トレー
回収本数 180,444本 回収率 81.8%	回収重量 9,595kg 回収率 60.2%
モウルドパック	仕分け袋
回収重量 28,210kg 回収率 113.8%	回収重量 1,540kg 回収率 7.0%

フードマイレージ
2009年9月から2012年2月までに組合員の利用によってたまったのは 158,743,387.9 poco
CO_2に換算して15,874トンを削減したことになります

アジア民衆基金
2009年4月から2012年2月までに組合員の利用によってたまったのは 21,648,981円

2011年10月号からのアジア民衆基金の数値に誤りがありました。お詫びいたします。

放射能汚染測定結果は、別紙の残留放射能検査結果に掲載しています。

みどりの地球をみどりのままで…

グリーンコープ

共生の時代

別紙

●発　行　グリーンコープ共同体理事会
●編　集　共生の時代・編集部
〒812-8561　福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号
カーニープレイス博多3階
●電話（092）481-7923　●FAX（092）481-7876
●ホームページ：http://www.greencoop.or.jp/

放射能汚染と向きあう（放射能測定室より）

東京電力の原子力発電所の事故を受けて行った残留放射能検査結果⑪

2012年2月3日～3月5日に検査した73品目はすべて検出限界値未満でした。

「検出限界値」とは、放射能検査において測定できる最小値のことをいいます。放射能の特性として、同じ機器で測定しても検体ごとに検出限界値は変動します。

※検査法の記号「Ge」はゲルマニウム半導体検出器での測定であることを示しています
「NaI」はNaIシンチレーションスペクトロメータでの測定であることを示しています

番号	商品名	製造地･生産地	製造日・収穫日等	測定日	検査法（Ge/NaI）	ヨウ素ー131		セシウムー134		セシウムー137	
						結果（Bq/kg）	検出限界値（Bq/kg）	結果（Bq/kg）	検出限界値（Bq/kg）	結果（Bq/kg）	検出限界値（Bq/kg）
486	紀州南高はちみつ梅	和歌山県日高郡	2012年 2月23日製造	2012年3月 5日	Ge	検出限界値未満	2.43	検出限界値未満	2.38	検出限界値未満	2.89
485	王隠堂農園梅干し	奈良県五條市	2012年 2月21日製造	2012年3月 5日	Ge	検出限界値未満	2.43	検出限界値未満	2.90	検出限界値未満	2.63
484	王隠堂農園白梅干し	奈良県五條市	2012年 3月 1日製造	2012年3月 3日	Ge	検出限界値未満	2.42	検出限界値未満	2.81	検出限界値未満	2.92
483	きざみカリカリ梅	奈良県五條市	2012年 3月 1日製造	2012年3月 3日	Ge	検出限界値未満	2.73	検出限界値未満	2.74	検出限界値未満	3.00
482	王隠堂農園南高かつお梅	奈良県五條市	2012年 3月 1日製造	2012年3月 2日	Ge	検出限界値未満	2.74	検出限界値未満	2.70	検出限界値未満	3.22
481	王隠堂小梅干し	奈良県五條市	2012年 3月 1日製造	2012年3月 2日	Ge	検出限界値未満	2.43	検出限界値未満	2.86	検出限界値未満	3.00
480	王隠堂小梅干し	奈良県五條市	2011年12月15日製造	2012年3月 2日	Ge	検出限界値未満	2.88	検出限界値未満	2.93	検出限界値未満	3.37
479	産直若鶏正肉モモ（秋川牧園）	福岡県田川郡	2012年 2月 6日製造	2012年3月 1日	Ge	検出限界値未満	0.73	検出限界値未満	0.77	検出限界値未満	1.14
478	産直若鶏正肉モモ（大矢野原農場）	熊本県上益城郡	2012年 1月19日製造	2012年3月 1日	Ge	検出限界値未満	0.78	検出限界値未満	1.05	検出限界値未満	1.03
477	産直耶馬渓地鶏モモ（下郷農協）	大分県中津市	2012年 2月21日製造	2012年3月 1日	Ge	検出限界値未満	0.68	検出限界値未満	0.77	検出限界値未満	1.08
476	産直たまご（庄村養鶏場）	熊本県宇城市	2012年 2月28日採取	2012年3月 1日	Ge	検出限界値未満	0.84	検出限界値未満	0.91	検出限界値未満	0.89
475	産直たまご（中島養鶏場）	福岡県筑後市	2012年 2月28日採取	2012年2月29日	Ge	検出限界値未満	0.76	検出限界値未満	0.97	検出限界値未満	0.89
474	産直たまご（サン･ファーム）	熊本県熊本市	2012年 2月28日採取	2012年2月29日	Ge	検出限界値未満	0.73	検出限界値未満	1.04	検出限界値未満	0.83
473	産直たまご（嘉穂の里農場）	福岡県飯塚市	2012年 2月27日採取	2012年2月29日	Ge	検出限界値未満	0.84	検出限界値未満	0.81	検出限界値未満	0.95
472	産直たまご（秋川牧園）	山口県山口市	2012年 2月27日採取	2012年2月28日	Ge	検出限界値未満	0.81	検出限界値未満	0.88	検出限界値未満	0.83
471	産直たまご（田村ポートリファーム）	福岡県筑後市	2012年 2月27日採取	2012年2月28日	Ge	検出限界値未満	0.79	検出限界値未満	0.95	検出限界値未満	1.14
470	産直たまご（菊川養鶏友の会）	山口県下関市	2012年 2月26日採取	2012年2月28日	Ge	検出限界値未満	0.68	検出限界値未満	1.00	検出限界値未満	0.95
469	産直たまご（新田ファーム）	鹿児島県出水市	2012年 2月25日採取	2012年2月28日	Ge	検出限界値未満	0.66	検出限界値未満	0.81	検出限界値未満	1.00
468	カラスカレイ切身（骨･皮なし）	カナダ	（原料カラスカレイ）2011年5月頃漁獲	2012年2月28日	NaI	検出限界値未満	2.37	検出限界値未満	3.94	検出限界値未満	3.81
467	三陸沖産とろびんながの藁焼きたたき	静岡県焼津港	（原料びんなが）2010年7～10月頃水揚	2012年2月27日	NaI	検出限界値未満	2.45	検出限界値未満	3.36	検出限界値未満	3.91
466	とちおとめいちごジャム	宮城県	（原料冷凍いちご）2010年5月頃収穫	2012年2月27日	NaI	検出限界値未満	2.52	検出限界値未満	4.10	検出限界値未満	3.98
465	宮城県産わかめ（塩蔵）	宮城県石巻市	（原料わかめ）2011年収穫	2012年2月27日	NaI	検出限界値未満	2.22	検出限界値未満	3.60	検出限界値未満	3.50
464	レトルトカレー（甘口）	佐賀県唐津市	2012年 2月22日製造	2012年2月27日	NaI	検出限界値未満	2.81	検出限界値未満	4.40	検出限界値未満	4.30
463	産直興農牛小間切	岡山県勝田郡	2012年 2月14日製造	2012年2月24日	NaI	検出限界値未満	4.21	検出限界値未満	6.89	検出限界値未満	6.69
462	パン粉	大分県宇佐市	2012年 2月17日製造	2012年2月24日	NaI	検出限界値未満	2.56	検出限界値未満	4.41	検出限界値未満	4.26
461	ほたて干し貝柱ブロークン	オホーツク海	（原料ほたて貝柱）2011年4～10月採取	2012年2月 6日	Ge	検出限界値未満	2.57	検出限界値未満	3.19	検出限界値未満	3.20
460	産直赤とんぼ米の玄米パフトースト	山形県村山市	2012年 1月19日製造	2012年2月 3日	Ge	検出限界値未満	1.93	検出限界値未満	2.63	検出限界値未満	2.29
459	無漂白寒天	長野県茅野市	2011年1～2月製造	2012年1月25日	Ge	検出限界値未満	3.05	検出限界値未満	3.32	検出限界値未満	3.58
458	さんま蒲焼（冷凍）	北海道東沖～三陸沖	（原料サンマ）2010年10月頃漁獲	2012年2月23日	NaI	検出限界値未満	2.80	検出限界値未満	4.58	検出限界値未満	4.44
457	産直大きなほうれん草（丸忠園芸組合）	宮崎県小林市	2012年 2月21日収穫	2012年2月22日	NaI	検出限界値未満	3.21	検出限界値未満	5.33	検出限界値未満	5.13
456	阿蘇草原生ハンバーグ（阿蘇産あか牛）	熊本県熊本市	2012年 2月17日製造	2012年2月22日	NaI	検出限界値未満	4.17	検出限界値未満	6.74	検出限界値未満	6.54
455	国産牛小間切（矢野畜産）	熊本県熊本市	2012年 2月18日製造	2012年2月22日	NaI	検出限界値未満	3.96	検出限界値未満	6.37	検出限界値未満	6.31
454	産直たまご（古賀養鶏場）	長崎県諫早市	2012年 2月19日採取	2012年2月21日	NaI	検出限界値未満	2.84	検出限界値未満	4.67	検出限界値未満	4.54
453	りんごジュース	長野県長野市	2011年 7月25日製造	2012年2月21日	NaI	検出限界値未満	2.77	検出限界値未満	4.42	検出限界値未満	4.30
452	即席切りこんぶの煮物	北海道釧路沖	（原料ながこんぶ）2011年7～9月収穫	2012年2月21日	NaI	検出限界値未満	2.38	検出限界値未満	4.12	検出限界値未満	3.93
451	とろろ昆布（ささめ雪）	北海道函館港	（原料こんぶ）2010年7～9月収穫	2012年2月20日	NaI	検出限界値未満	2.37	検出限界値未満	4.05	検出限界値未満	3.75
450	えのき茸（ブラウン）（丸金）	長野県長野市	2012年 2月13日収穫	2012年2月20日	NaI	検出限界値未満	2.84	検出限界値未満	4.64	検出限界値未満	4.51
449	おぼろ昆布	北海道函館沖	（原料まこんぶ）2010年7～9月収穫	2012年2月17日	NaI	検出限界値未満	2.30	検出限界値未満	3.94	検出限界値未満	3.68
448	カラスカレイ切身（骨･皮なし）	カナダ北大西洋	（原料カラスカレイ）2011年11月頃漁獲	2012年2月17日	NaI	検出限界値未満	2.42	検出限界値未満	3.94	検出限界値未満	3.82
447	カラスカレイのえんがわ	カナダ北大西洋	（原料カラスカレイ）2011年11月頃漁獲	2012年2月17日	NaI	検出限界値未満	2.48	検出限界値未満	3.96	検出限界値未満	3.90
446	銚子産真いわしフィレ	千葉県銚子市	（原料真いわし）2010年漁獲	2012年2月15日	NaI	検出限界値未満	2.26	検出限界値未満	3.65	検出限界値未満	3.54
445	産直小ねぎ（いわみ野菜クラブ）	島根県浜田市	2012年 2月14日収穫	2012年2月16日	NaI	検出限界値未満	2.84	検出限界値未満	4.71	検出限界値未満	4.58
444	細切昆布佃煮	北海道釧路沖	（原料ながこんぶ）2010年7～9月収穫	2012年2月15日	NaI	検出限界値未満	2.24	検出限界値未満	3.75	検出限界値未満	3.60
443	ごはん昆布	北海道釧路沖	（原料ながこんぶ）2010年7～9月収穫	2012年2月15日	NaI	検出限界値未満	3.00	検出限界値未満	5.05	検出限界値未満	4.68
442	野菜かりんとう	埼玉県川越市	2012年 2月 7日製造	2012年2月14日	NaI	検出限界値未満	2.83	検出限界値未満	4.76	検出限界値未満	4.61
441	キッズカレー	佐賀県唐津市	2012年 1月17日製造	2012年2月13日	NaI	検出限界値未満	2.74	検出限界値未満	4.36	検出限界値未満	4.21
440	本格派カンパン	山梨県甲府市	2011年 5月20日製造	2012年2月13日	NaI	検出限界値未満	2.40	検出限界値未満	4.11	検出限界値未満	3.97
439	産直伊予柑（百姓倶楽部八女の郷）	熊本県荒尾市	2012年 2月 8日収穫	2012年2月13日	NaI	検出限界値未満	2.91	検出限界値未満	4.78	検出限界値未満	4.63
438	産直りんご（サシャ）（津軽みらい農協石川）	青森県弘前市	2011年11月21日収穫	2012年2月10日	NaI	検出限界値未満	2.28	検出限界値未満	3.71	検出限界値未満	3.65
437	産直なばな菜（若宮菜々クラブ）	福岡県宮若市	2012年 2月 6日収穫	2012年2月10日	NaI	検出限界値未満	3.85	検出限界値未満	6.51	検出限界値未満	6.30
436	赤とんぼ米ソフトせんべい	山形県村山市	2011年11月16日製造	2012年2月 9日	NaI	検出限界値未満	2.93	検出限界値未満	5.06	検出限界値未満	4.89
435	雪印北海道100チェダークラッシュ	山梨県北杜市	2012年 1月 4日製造	2012年2月 9日	NaI	検出限界値未満	2.80	検出限界値未満	4.56	検出限界値未満	4.44
434	干しいも（角切り）	茨城県かすみがうら市	（原料芋）2010年10～12月収穫	2012年2月 9日	NaI	検出限界値未満	3.07	検出限界値未満	5.00	検出限界値未満	4.74
433	真だら切身（うす塩味）	宮城県塩釜市	（原料真だら）2011年3～11月漁獲	2012年2月 8日	NaI	検出限界値未満	2.20	検出限界値未満	3.55	検出限界値未満	3.45
432	産直ブロッコリー（吾妻町有機農業研究会）	長崎県雲仙市	2012年 2月 1日収穫	2012年2月 8日	NaI	検出限界値未満	2.88	検出限界値未満	4.74	検出限界値未満	4.60
431	スキンレスたら切身ソテー用	宮城県塩釜市	（原料真だら）2011年3～11月漁獲	2012年2月 8日	NaI	検出限界値未満	2.33	検出限界値未満	3.84	検出限界値未満	3.72
430	産直レタス（綾菜会）	宮崎県東諸県郡	2012年 2月 6日収穫	2012年2月 8日	NaI	検出限界値未満	3.31	検出限界値未満	5.48	検出限界値未満	5.30
429	産直いちご（肥後七草会）	熊本県宇城市	2012年 2月 5日収穫	2012年2月 7日	NaI	検出限界値未満	2.46	検出限界値未満	4.00	検出限界値未満	3.90
428	真だら切身（うす塩味）	宮城県塩釜市	（原料真だら）2011年3～11月漁獲	2012年2月 7日	NaI	検出限界値未満	2.28	検出限界値未満	3.62	検出限界値未満	3.54
427	雪印北海道100カマンベールチーズ切れてるタイプ	北海道広尾郡	2011年12月31日製造	2012年2月 7日	NaI	検出限界値未満	2.91	検出限界値未満	4.69	検出限界値未満	4.60
426	スキンレスたら切身ソテー用	宮城県塩釜市	（原料真だら）2011年3～11月漁獲	2012年2月 7日	NaI	検出限界値未満	2.34	検出限界値未満	3.82	検出限界値未満	3.72
425	レトルトカレー（中辛）	佐賀県唐津市	2012年 1月24日製造	2012年2月 7日	NaI	検出限界値未満	2.76	検出限界値未満	4.58	検出限界値未満	4.43
424	産直いちご（農援隊）	佐賀県唐津市、東松浦郡	2012年 2月 2日収穫	2012年2月 6日	NaI	検出限界値未満	2.57	検出限界値未満	4.16	検出限界値未満	4.06
423	真だら切身（うす塩味）	宮城県塩釜市	（原料真だら）2011年3～11月漁獲	2012年2月 6日	NaI	検出限界値未満	2.31	検出限界値未満	3.78	検出限界値未満	3.68
422	ミニおはぎ200g（8個）	岩手県花巻市	2011年11月21日製造	2012年2月 6日	NaI	検出限界値未満	2.72	検出限界値未満	4.33	検出限界値未満	4.27
421	スキンレスたら切身ソテー用	宮城県塩釜市	（原料真だら）2011年3～11月漁獲	2012年2月 6日	NaI	検出限界値未満	2.33	検出限界値未満	3.87	検出限界値未満	3.71
420	黒ごませんべい	山形県村山市	2011年10月25日製造	2012年2月 4日	NaI	検出限界値未満	2.84	検出限界値未満	4.78	検出限界値未満	4.64
419	とんぼのめぐみのおせんべい	山形県村山市	2011年12月17日製造	2012年2月 4日	NaI	検出限界値未満	2.98	検出限界値未満	5.13	検出限界値未満	4.96
418	かつおパック	鹿児島県枕崎港	（原料かつお）2010年12月8日、2011年5月31日水揚	2012年2月 3日	NaI	検出限界値未満	3.00	検出限界値未満	5.21	検出限界値未満	4.99
417	揚芭蕉	山形県村山市	2011年11月14日製造	2012年2月 3日	NaI	検出限界値未満	2.88	検出限界値未満	4.92	検出限界値未満	4.76
416	産直キャベツ（宗像生産者グループ）	福岡県宗像市	2012年 2月 1日収穫	2012年2月 3日	NaI	検出限界値未満	3.11	検出限界値未満	5.14	検出限界値未満	5.00
415	産直ぽんかん（青木農園）	大分県杵築市	2011年12月10日頃収穫	2012年2月 3日	NaI	検出限界値未満	3.00	検出限界値未満	4.95	検出限界値未満	4.79
414	産直木頭ゆず（きとうむら）	徳島県那賀郡	2011年11月中旬収穫	2012年2月 3日	NaI	検出限界値未満	2.99	検出限界値未満	4.87	検出限界値未満	4.71

検査結果については、ホームページでも週に一度のペースでお知らせします。表記についてもホームページと同様にしています

検査対象エリア　グリーンコープは、商品や原料について放射能汚染が心配される地域を、関東から東北地方と考えています。文部科学省から出されている（新聞で報道されている）大気中の「環境放射能水準調査結果」を基に、通常レベルより高いエリアについても検査対象としています。なお、対象エリア以外の商品でも、牛乳など日常的に多く摂取する商品及び椎茸など放射性物質を蓄積しやすい商品は検査することにしています。また、水産物については、近隣海域の放射能汚染状況が調査・公表されています。その情報などを基に漁獲海域によって放射能検査をする対象を判断していきます。

検査対象　2011年３月11日以降に、生産・製造・保管されていた商品及び原料を順次検査しています。定期的なサイクルで検査を行えるよう年間計画を立てて検査します。

検査機関　2011年10月よりグリーンコープ放射能測定室（福岡市）で検査を開始しました。ただし、グリーンコープ放射能測定室で検査可能な品目数を超えた場合などは、これまでと同様に外部機関に検査を委託することもあります。

検査日　検体を測定した日を記入しています。

検査結果の表記　ヨウ素131とセシウム134、セシウム137の3種類について結果をお知らせします。
※検出限界値未満とは、放射能は0ではなく、放射能は存在する可能性があるということです。厚生労働省から9月29日付けで、検出限界値未満の結果については、測定によって得られた検出限界値を表示するよう通知が出されており、国や自治体から公表される検査結果には、「不検出」や「検出せず」ではなく、検出限界値が表示されるようになりました。

シリーズ(7)
被災地復興の今

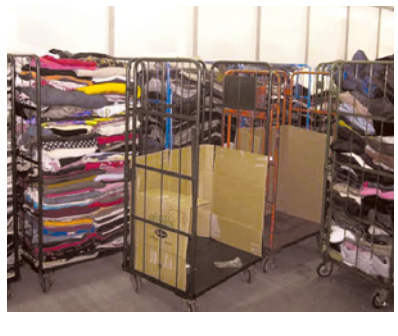
「3.11」支援活動の歩み

2011年３月11日、東日本を襲った大震災。未曾有の被害を受けた被災者の方々へ、グリーンコープは直ちに緊急救援物資を届けました。すべてのいのちと寄り添い、助けあい、支えあう社会・地域をめざすグリーンコープだからこそできる支援を続けてきました。この1年の支援活動を振り返ります。2011年３月から８月までを今号に、９月から2012年２月までを次号に掲載します。

3月

グリーンコープ

- 3.14から、ほぼ毎日支援物資を被災地へ（3月は計23便）
- 3月下旬から、被災地からの要望で卵・納豆・豆腐も届ける
- 3.18被災者支援共同事業体スタート
- 3.22から車両（物資配達用）供給開始。全単協で15台を提供
- 3.21組合員への支援物資提供の呼びかけを行う



共生地域創造財団

- 3.12ワンファミリー仙台、仙台夜回りグループ、萌友で炊き出し開始
- 3.16奥田共生地域創造財団理事長が仙台入り
- 3.18共同事業体として仙台を拠点に活動開始（グリーンコープ・ホームレス支援全国ネットワーク）
- 3.12よりグリーンコープ提供の車両活動、グリーンコープ支援物資をグリーンコープトラックで配送開始
- 岩手（遠野市）にて支援活動開始

4月

グリーンコープ

- 組合員からの提供物資の振分作業を3.29から開始（約２ヵ月間で終了）
- 「被災者支援共同事業」推進と拠点整備のために仙台に倉庫兼事務所を借りる
- ４月は36便のトラックが被災地（米沢市・いわき市・南相馬市・埼玉県・仙台市の団体）に支援物資を届けた
- 地域の商品や原料の残留放射能検査をたんぽぽ舎で実施（２～４アイテム／日）

共生地域創造財団

- 宮城県や仙台市と連携し、山元・亘理・仙台市・石巻・女川・南三陸・気仙沼までの避難所等に物資配送
- 遠野まごころネットへグリーンコープ車両配置
- 蛤浜支援

5月

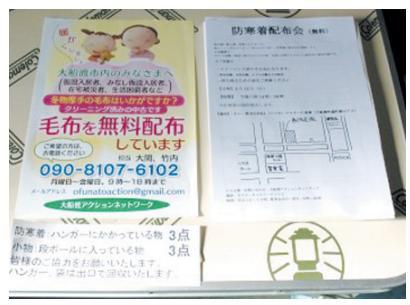
グリーンコープ

- ５月から岩手県遠野市のＮＰＯまごころネットワークへの物資供給スタート。合計19便のトラックが被災地に支援物資を届けた
- 福祉ワーカーズ・コレクティブ連合会による視察を行い、専門職ボランティアによる支援調査開始
- 蛤浜に瓦礫撤去作業者対応及び物資保管用のプレハブ小屋設置

蛤浜にプレハブ設置

共生地域創造財団

- 遠野公民館宿舎から民間宿舎へ移行
- 避難所から仮設への移行が始まり、避難所・仮設への対応となる



6月

グリーンコープ

- 組合員供給の敷布団600枚の打直しと毛布一部クリーニング（2000枚）が仕上る
- ６月は20便のトラックが支援物資を届けた。新しく岩手県大船渡市への物資提供を開始
- 蛤浜での家屋解体や瓦礫撤去が困難なために九州から重機を手配して作業にあたる
- 仙台郡山倉庫近くに宿舎を借り、ボランティアの受入れを整備
- グリーンコープ職員にボランティア募集し、取引先工場・蛤浜の瓦礫撤去や物資配送を支援（６月支援人員６人）

共生地域創造財団

- 6.1、３団体で共同事業体として活動開始（グリーンコープ・ホームレス支援全国ネットワーク・生活クラブ）
- ワンファミリー仙台におけるパーソナルサポートセンター開設、仙台市から仮設見守り支援受託
- 蛤浜へ漁船提供（大分の方からの寄贈船をグリーンコープと連携し提供）
- 大船渡アクションミーティング開始、地元団体、社会福祉協議会、行政、ＮＰＯなどが協力して支援を行う会議を主催し、情報・課題の共有と取り組み検討開始

大分から届けられた漁船（蛤浜）

7月

グリーンコープ

- 宮城県山元町の介護福祉施設。デイサービスセンターで福祉ワーカーズ・コレクティブ連合会によるボランティア支援活動開始（７月支援人員４人）
- ７月のグリーンコープ職員ボランティアは23人。蛤浜のカキ筏準備作業、西光寺及び高橋徳治商店の瓦礫撤去・清掃
- ７月は15便のトラックが支援物資を届けた

介護施設で支援

共生地域創造財団

- 髙橋徳治商店、西光寺へのボランティア派遣開始（泥だし、機械の清掃、墓石片付け）
- 岩手チームを１人⇒２人体制
- 折浜・蛤浜漁業支援開始
- 遅れていたカキ種付作業を支援。各漁業者２機の筏を設置

8月

グリーンコープ

- ボランティアとして、福祉ワーカー５人が介護施設へ、グリーンコープ職員７人が取引先工場・蛤浜・物資配送へ
- ８月は５便のトラックが被災地に支援物資を届けた
- 支援長期化に伴い常駐職員１人を配置

介護施設で支援

共生地域創造財団

- ＪＡ加美より清水倉庫無償提供いただき、物資拠点できる
- グリーンコープからの常駐職員配置に伴い、支援活動強化と長期支援に向けて公益財団化の準備開始
- 斉藤農園の瓦礫撤去支援開始